

[成果情報名] ピリプロキシフェンテープ剤によるトルコギキョウ葉巻症の省力的長期発生抑制

[要約] トルコギキョウの生育初期からピリプロキシフェンテープ剤を草冠上に展張することにより、シルバーリーフコナジラミの発生を省力的に長期間抑制し、本虫が媒介する *Tomato yellowleaf curl virus* (TYLCV) による葉巻症の発生も抑制する。

[キーワード] トルコギキョウ、葉巻症、ピリプロキシフェンテープ剤、シルバーリーフコナジラミ、TYLCV、抑制

[担当] 総合農林試験場・環境部・病害虫科

[連絡先] 電話 0957-26-3330、電子メール uchikawa@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 花き（生産環境）

[分類] 普及

[背景・ねらい]

最近、九州を中心にトマトで問題となっている黄化葉巻病の病原ウイルス、*Tomato yellow leaf curl virus* (TYLCV) は、トルコギキョウにも感染し、節間の萎縮、葉の舟形葉巻および小葉化等の葉巻症を生じ、花の品質にも大きな影響を及ぼす。本症は、1999年9月西彼杵郡琴海町と同年11月大村市で、わが国で初めて発生が確認され（ながさき普及技術情報第19号、2000）、その後も発生が続いている。本ウイルスはシルバーリーフコナジラミによって媒介されるため、本症の発生防止には、本虫の防除が重要である。

そこで、ピリプロキシフェンテープ剤のトルコギキョウにおけるシルバーリーフコナジラミに対する防除効果を検討し、葉巻症防除への実用性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．トルコギキョウの生育初期からピリプロキシフェンテープ剤を草冠上に展張すると、シルバーリーフコナジラミの発生を長期間抑制し（表、図1）、同時に葉巻症の発生も抑制する（図2）。
- 2．本処理法は、1回設置するとトルコギキョウの生育に応じて定期的に展張位置をずらす作業だけでよく、省力的である。

[成果の活用面・留意点]

- 1．6月上旬以降、シルバーリーフコナジラミの密度が上がると、葉巻症の発生抑制効果は低下するので、薬剤散布を併行する。
- 2．施設開口部は、1mm目程度のネットで被覆する。
- 3．本剤に対するシルバーリーフコナジラミの抵抗性発達を防ぐため、年間の内、連続4ヶ月間以上の不使用期間を地域全体で設ける。
- 4．蚕に長期間強い毒性があるので、使用済みの本剤は燃やさず、設置に使用した手袋および空き袋等も含めて全量をビニール袋等に集め、販売店を通じて回収する。

[具体的データ]

表. トルコギキョウにおけるシルバーリーフコナジラムの株当たり成虫数の推移

調査月日	1/8	1/22	2/7	2/19	3/5	3/26	4/9	4/26	5/7	5/21	6/5	6/18	7/5	7/23
処理区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.03	0.07	0.21	0.18
無処理区	0.01	0	0	0.02	0.01	0.01	0.01	0	0.01	0.03	0.17	2.66	2.61	10.75

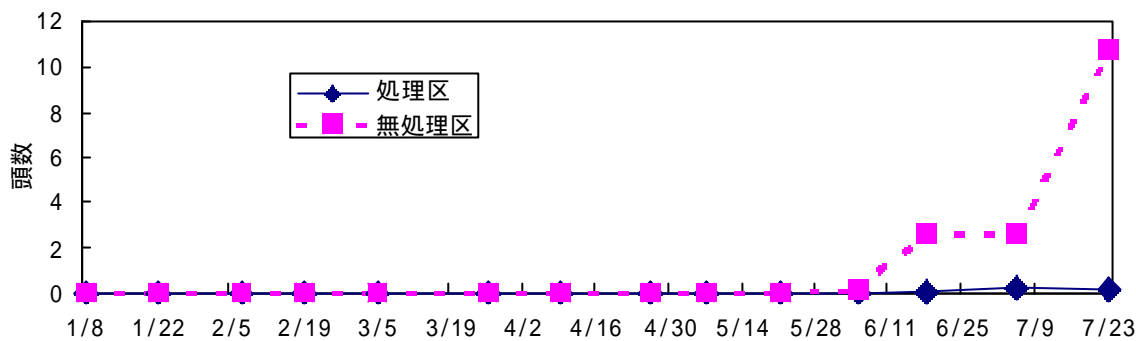


図1 トルコギキョウにおけるシルバーリーフコナジラムの株当たり成虫数

定植：2001年11月上旬、開花始期：3月26日、1番花収穫期：5月7日～6月18日

冬期加温：18-20℃、ハウスの側面開口部は1.0mm目合のネットを展張

ピリプロキシフェンテープ剤設置：2001年12月27日、36㎡/10a、各畝毎に草冠上10-15cm

調査：50株×2カ所

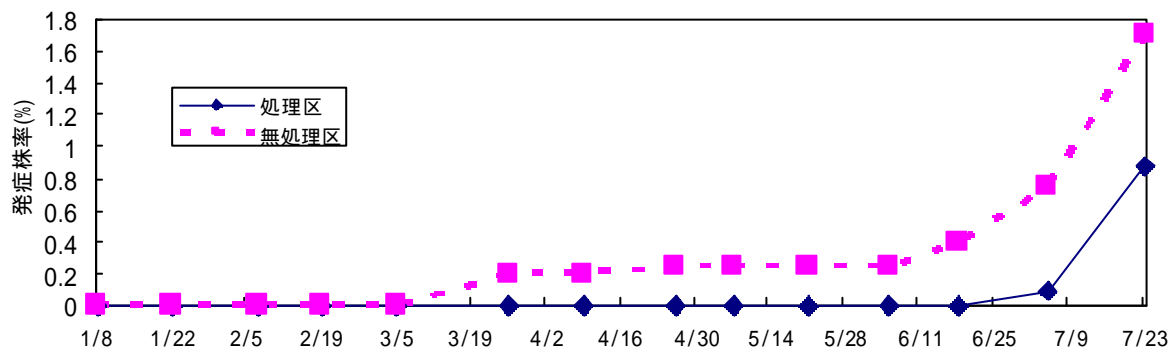


図2 トルコギキョウ葉巻症の発生推移(累積)

調査:1000株×2カ所



図3 ピリプロキシフェンテープ剤設置風景

[その他]

研究課題名：環境保全型農業推進のための技術・緊急対策

予算区分：県単

研究期間：2002年度～

研究担当者：内川敬介、小川恭弘